

地域経済×「サービス産業の労働生産性向上」好循環モデルの創出



付加価値増大（分子）
労働投入量の最適化（分母）

【磐田市】地域中核企業（プロスポーツクラブ等）をハブにした異業種企業間連携等を通じた面的な労働生産性向上モデル

- プロスポーツクラブと市内飲食店の連携プロジェクトの高度化を通じて、地域サービス事業者の競争力強化・労働生産性向上に向けた基盤づくりに取り組む。
- 上記を進めるため、域外需要を呼び込めるポテンシャルを有するプロスポーツクラブやZ世代の若者等からなる新たなコミュニティを形成し、データ活用・企業間連携の具体化のための勉強会等を開催。

【支援対象（取組主体）】

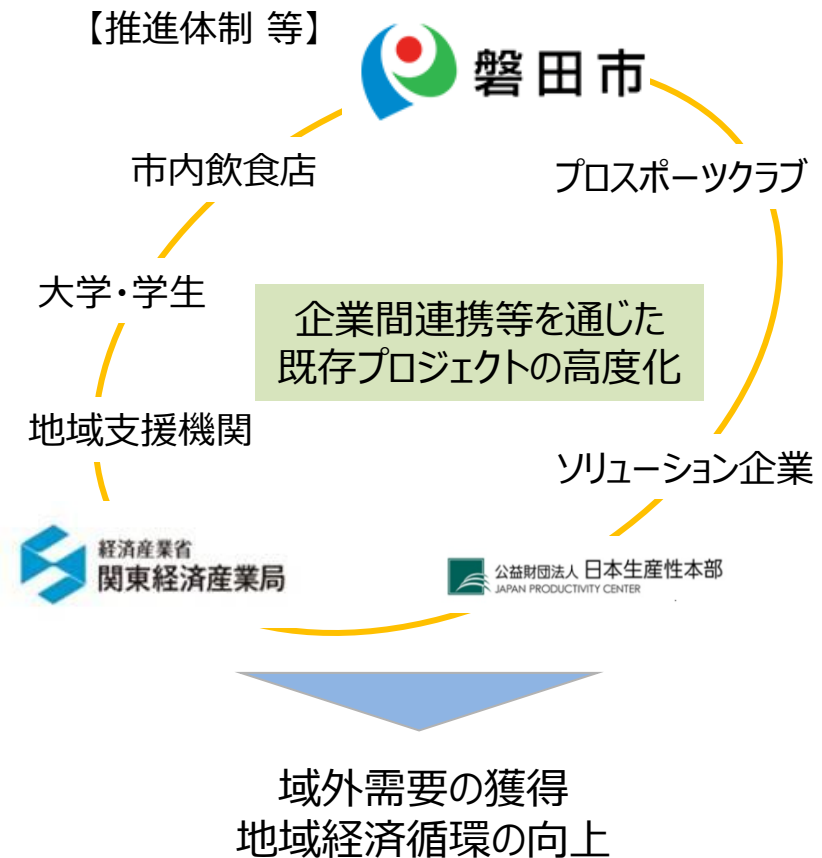
- ・ 磐田市、ジュビロ磐田、静岡ブルーレヴズ、市内飲食店、静岡産業大学、農林環境専門職大学、商工会議所、等

【取組の経緯・進捗】

- ・ 地域関係者との対話を重ね、地域資源であるプロスポーツクラブを核にした需要創出・地域経済循環の改善や市内飲食店のデジタル化に向けた意識醸成に取り組みたいという方向性を整理。同市が昨年度に開始したジュビロ磐田と市内飲食店の連携事業「ジュビロ飯」に着目。
- ・ 関係者ヒアリングやアンケートで同事業による地域回遊等の効果検証を行うとともに、飲食店、ジュビロ磐田、静岡ブルーレヴズやZ世代の若者等からなる新たなコミュニティの形成を支援。プロスポーツクラブを絡めた企業間連携等を通じた新たな事業アイデアを具体化するための勉強会等を3回実施。

【成果及び今後の方向性】

- ・ 域外需要を呼び込むポテンシャルを有する市内スポーツクラブ、市内サービス業、域外ソリューション企業、学生等が連携し、今まで地域で構築できていなかった地域サービス事業者等による新たなコミュニティを形成。
- ・ 同コミュニティがハブとなり、デジタル技術の活用による既存サービスの高度化・新サービスの創出、業務プロセスの効率化を目指す。



- プログラム回数を重ねるごとに、参加者におけるデータ利活用、企業間連携、地域の労働生産性向上・稼ぐ力の向上の取組に対する意識の向上がみられた。（第3回目プログラム参加者のうち、86%の方よりデータ利活用への意識変化ありとの回答を得た。）
- 異業種の事業者やZ世代の学生等、関係者の顔が見える関係が構築できたことで、企業間連携を通じた新しい打ち手を考えることが可能になった（ユーザー目線の議論も可能。）地域で継続した取組を行う“チーム磐田”では、既存サービスの高度化・新サービスの創出等を目指す

STEP1 地域の意識醸成、チームづくり

第1回
2023/1/13

第2回
2023/2/17

第3回
2023/3/16

【プログラムの成果】

- ジュビロ飯の現状について、提供者と利用者の意見・実態の把握ができたことで、ジュビロ飯の産業振興での活用に係る方向性やデジタル活用の必要性について検討する一步を得られた
- スタジアムを核とした磐田地域の稼ぐ力の向上、地域の関係者間の連携について興味・関心を持つ地域企業等が増えた（＝意識醸成）
- 地域企業の中でも本分野に前向きな事業者や若者である学生の意見・考えを把握することができたとともに、関係者の顔の見えるつながりを形成できた（＝緩やかなコミュニティ形成）

グループディスカッションの様子



【プログラムを通じて出たアイデア（一例）】

- スタジアム内外、ライト層ファン層の2軸を意識したスタジアムを活用したイベント
- ヤマハスタジアムを核とした人流分析をふまえたエリアマーケティング
- 御厨駅とヤマハスタジアム間での移動に着目した地域回遊や需要喚起イベント
- 磐田地域の魅力の発掘・発信の強化と、とがったコンテンツを活かした観光モデルコースづくり
- ふるさと納税にスポーツクラブを絡めた体験型の返礼品

2023.4~

STEP 2

地域での実走に向けた検討

- 市内飲食店・スポーツクラブ相互のファンが増え、稼ぐ力が向上するとともに、市内に人が集まり、市内経済が活性化する仕組みづくりを目指す

プログラムを通じて出たアイディアの実走を検討
(まずはスタジアムを核として展開し、その後中心市街地等の横展開を図る)

スタジアム内外・ライト層ファン
層の2軸を意識した
スタジアムを活用したイベント

御厨駅とヤマハスタジアム間
での移動に着目した地域回
遊や需要喚起イベント

ヤマハスタジアムを核とした
人流分析をふまえた
エリアマーケティング

磐田地域の魅力の発掘・発
信の強化と、とがったコンテンツ
を活かした観光モデルコース
づくり

ふるさと納税にスポーツクラブ
を絡めた体験型の返礼品